

2021年度 昭和薬科大学地域連携センター報告



目 次

1. はじめに	p.1
2. 地域連携センターの1年	p.2
3. 団地暮らし報告	p.3
4. 町田市薬剤師会との協議会活動： 生涯学習サポートと連携による地域の子育てサポート	p.7
5. さがまちコンソーシアムにおける大学間連携を目指した活動	p.20
6. 小田急まなたび講座でより広い地域への大学の魅力を発信	p.22
7. 南町田地域コミュニティへの参画	p.24
8. 2022年度に向けて	p.25

1. はじめに

地域連携センターは、2020年4月に発足しました。その後2年間、世界中がコロナ禍に巻き込まれ、さまざまな活動が制限される中、なんとか活動を展開してきました。

地域連携センター運営委員会メンバーが、それぞれの持ち味や得意分野を活かして、活動に多大な貢献をすることで、新しい感染症の脅威にも負けない、健闘を続けています。

活動を続ける中で、地域のさまざまな人々の昭和薬科大学への期待をひしひしと感じます。大学の存在は、大学の中のひとが思っている以上に、地域コミュニティにとって重要な位置づけをなされています。特に、学生と有形無形の大学資源に対するニーズが大きいです。学生に関しては、勤勉で活動的な昭和薬科の学生イメージに対して、もっと交流したい、一緒にできることがあるのではないか、という様々な新しい提案がなされています。今後は学生ともっとコラボレーションをして、地域での活動に関する学生の希望とニーズに立脚した、新しい活動が展開できるよう、サポートしていきたいです。

有形無形の大学資源のうち、専門知識に基づく講座や講義の運営に関しては、オンラインでの実施がほとんどとなっていますが、あまりPRもできていない中、毎回コアなファンのような参加者がおられて、受講してくださっています。また、感染症の状況に応じて、対面で実施できた機会には、反応もよく、講師の先生も張り切って「やりがいがある」といった感想をお話しされていました。施設関連ですと、植物園の人气が高く、講座とセットで見学会を企画しましたが、蔓延防止重点措置のために実現せず、がっかりされた方が多かったようです。

さまざまな活動がスタートしたばかりですので、手探りで、まずは3年がんばってみよう、とメンバーで話しています。

今後は、学生だけではなく、教職員のみならず、地域の方々や企業・団体と何かやってみたい、というお声もぜひお聞かせいただき、一緒に新しい活動を始めていきたいです。

2. 2021 年度 地域連携センターの 1 年

- 4月 南町田地域コミュニティ:科学技術週間(文部科学省)イベントの開催@まちライブラリー & 子どもクラブつみき
町田市薬剤師会との協議会:「新型コロナウイルスワクチン集団接種訓練講習会」
- 5月 ユニコムプラザさがみはら: 市民大学交流会 講演「感染症の歴史:新興感染症とはなにか」
大学情報展示コーナー(春～夏)
- 6月 町田市薬剤師会との協議会:第1回生涯学習講座「オンライン服薬指導の現状と今後の課題」開催
- 7月 町田ゼルビア:学生の活動や教育に資する連携の検討を開始
ユニコムプラザさがみはら: まちづくり交流会での展示
- 9月 町田市薬剤師会との協議会:多摩地区(第4地区)研修会の開催
- 10月 小田急まなたび講座: 第1回「くすりに込められた様々な工夫」
第2回「痛み止めが効く仕組み:薬の構造から考える」
町田市薬剤師会との協議会:第2回生涯学習講座「緊急避妊薬を薬局で」開催
- 11月 お薬相談カフェ:町田地域子育て相談センター&町田市薬剤師会&町田地域活動サポートオフィスの
コラボレーションによるイベント
さがまちカレッジ講座:「薬学の視点から考える身近な健康のお話:身体の画像診断法」
ユニコムプラザさがみはら:大学情報展示コーナー(秋～冬)
- 1月 団地プロジェクト懇談会
- 2月 小田急まなたび講座: 第3回「感染症を予防するワクチン:ワクチンのしくみ」
- 3月 町田市薬剤師会との協議会: 第3回生涯学習講座「まちづくりとフレイル予防」開催

3. 団地暮らし報告（2020～2021年度の出来事）

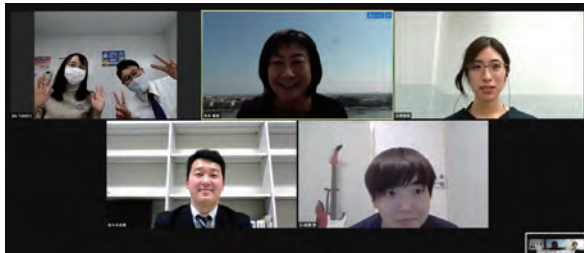
昭和薬科大学 X 東京都住宅公社@本町田住宅

2020.2～ コロナ禍に見舞われ、さまざまな自治会活動は自粛となった

2020.6 オンライン定例会で新入居学生を歓迎



2020.11 2回目のオンライン定例会



2021.5 オンライン懇談会(JKK&大学 担当者のみ)

2021.8 夏休みラジオ体操(Iくん参加)
子どもたちの前に立って、元気にリードした

2021.8 夏祭り(Mさん、S君、N君、I君参加)
ボールすくいや射的などのゲームコーナーを担当

＜感想1＞初めて団地に住む子供たちと本格的に触れ合うなどの交流が出来て良かったです。高齢者と関わるイベントがほとんどだったので、これからこのような子供たちと交流できるイベントが増えていくと良いと思いました。(N君)

＜感想2＞私もこれまでは高齢者の方々と関わる機会しかなかったので、子供たちとの交流はすごく新鮮でした。また、子供たちはすごく素直で活発な子が多く自分自身すごく元気をもらいました。(S君)

＜感想3＞8月は新型コロナウイルスの感染が拡大していたこともあり、夏祭りを安全に開催できるのか不安な気持ちもありました。しかし、子供たちが楽しそうにゲームに参加する姿を見て、無事に開催することが出来て本当に良かったと思いました。(Mさん)

＜感想4＞団地に引っ越してきて初めての大掛かりなイベントでかなり緊張していたところはあったのですが自治会員の皆さんの助けもあって無事に終わることができました。(I君)

2021.11.20 防災訓練(Mさん、I君、N君参加)

＜感想1＞このイベントは、いくつかの防災に関するブース(消火器を用いた消火体験、起震車、止血講座など)に分かれ、各々で体験や説明を受けるというものでした。昨年は消防士の方々はおらず、自治会役員中心で防災訓練を行っていたので、今年は本格的な防災訓練が行なえたかなと思いました。また、自分は、消防士の方々による止血の講座のサポート(講座で使用する三角巾の配布・回収や、ブースの準備片付け)を行いました。消防士の方々と話すなどの交流が出来た貴重な機会でした。(N君)

＜感想2＞薬学部生として何か意見や企画がないか事前の打ち合わせで尋ねられましたが、良い案が挙げられませんでした。来年度以降は、被災時のおくすり手帳や常備薬の重要性など薬学部生の視点からお話が出来ると良いと思います。また、防災訓練の当日は参加することが出来なかったもので、来年度は参加したいです。(Mさん)

＜感想3＞このイベントでは自分は消火体験の担当をしました。玄関前に消火器があるのは知っていたのですがどのように使えばいいのか対処法などを知ることができて貴重な経験をさせていただきました。またこのころから自治会員の皆さんをある程度知ることができて話かけてもらえるようにもなりました。(I君)

2021.12.12 もちつき(Mさん、N君、I君、団地外学生2名)



＜感想1＞ 昨年はコロナにより中止となってしまったので2年ぶりの開催でした。餅つきを行う人の飲食の禁止を徹底することをルールとして、感染者がかなり少なかったことにより、今年は開催することが出来ました。自分は3回目の参加であったので、餅を突くスキルが上がっていることが自他ともに認めることができ、戦力として参加することが出来ました。今回は昭和薬科大学の学生の参加が少なく寂しかったので、次回は沢山の学生で盛り上げていきたいです。(N君)

＜感想2＞ 2年ぶりの開催だったため、自治会員さんにとっても会員さん同士で久しぶりにお話が出来る機会になり、和気あいあいとした雰囲気のなかに参加させていただきました。私はベテランの方々からコツを教わりながら、お餅にあんこを入れたり、お餅の形成を行う係を担当しました。素早く綺麗にお餅の形を整えることは難しかったですが、楽しく参加することが出来ました。持ち帰った出来立てのお餅はとても美味しかったです。(Mさん)

＜感想3＞ 餅つきの話はたくさん周りの方から聞いていてとても楽しみにしていました。二年ぶりということでセオリーなども忘れているところもあって探り探りやることができていろいろ学ぶことができました。僕は餅の売買を担当して約2～300パックを売り切って、とても疲れたのですがその後に食べた餅は格別の味でした。(I君)

2022.1.15 どんど焼き(Mさん、N君、I君、団地外学生1名参加)



＜感想1＞ 例年この時期は定期試験があり、参加することが出来ていなかったのが、今回初参加となりました。どんど焼きの土台を竹を切って組み立てるという工程が思っていたより複雑でないことが分かりました。また、竹が破裂しないように竹に穴を開けるという工夫なども知り、驚きました。今年は、コロナの影響でお神酒や甘酒を味わうことが出来なかったですが、来年こそはみんなで「味わって」より良い雰囲気でどんど焼きを行いたいです。(N君)

＜感想2＞ 昨年は新型コロナウイルスの影響で多くの季節の行事が中止になっていたため、規模を縮小した形でも開催してもらえて嬉しいと若い自治会員の方からお話を頂きました。これまで、役員以外の方との交流が殆どなかったため、自治会活動に対して感想を頂けたことが嬉しかったです。また、周囲で遊んでいた子供たちがどんど焼きに興味をもち集まっていたことも印象に残っており、今後は年齢層を問わず参加しやすい行事が増えると良いと感じました。(Mさん)

＜感想3＞ 新型コロナウイルスの影響で一年ぶりの開催となり例年より開催時間を短くして開催したのですが数多くの方が訪れて正月の飾りなどを焼きに来てくれました。僕はどんど焼きの土台の竹を切ってくる役目を

いただいたのですが切った三本の竹を会場まで担いでいくのがとても大変でほかの方の力を借りながらなんとか運ぶことができました。生まれてからこれまでこんな大きな火を使ってものを焼くという体験が初めてだったのでとても貴重な経験をすることができ、来年もぜひ参加したいです。(I君)

2022.1.18 定例会@昭和薬科大学



＜感想1＞他校での自治会行事の例や吉永先生からもイベントや今後の取り組みについてご提案して頂いて刺激になりました。また、新しい学生が入居しやすいように、今年度は自治会活動をもっとアピールしていけるようにしたいです。(Mさん)

＜感想2＞自分は去年はあまり自治会の活動に参加できておりませんでした。先生、JKKの皆さんから感謝されたのは嬉しかったです。自分は今年で本町田住宅から出ていくこととなりますが、昭和薬科大学の学生が本町田住宅に入居し、さらに自治会活動を盛り上げてくれることを願っています。(S君)

＜感想3＞ほかの団地の様子や今後の取り組みなど多くの提案をしてもらって気にかけていただけているようでとてもうれしかったです。これからどんどん新規の学生を取り込んでこの活動を続けていけると嬉しいです。(I君)

2020-2021年を振り返って

コロナ禍の中、団地で暮らす方々はコミュニティを維持するために、話し合いを重ね、少しでも行事の実現ができるよう奔走されたのではないのでしょうか。

学生たちはそんな大人の姿をみて、大学では学べない、人のつながりの大事さやそれを維持するための努力や工夫について体験を通して、知り得ていると思います。

各イベントに関する学生の感想にそのことがうかがえます。

今後とも、地域コミュニティの活性化に学生が主体的に関われるよう、大学もサポートしていきたいです。

4. 町田市薬剤師会との協議会活動：生涯学習サポートと連携による地域の子育てサポート

<1> 2021 年度 昭和薬科大学・町田市薬剤師会 生涯学習研修講座

1) 第1回 オンライン服薬指導の現状と今後の課題

開催日：2021年6月12日(土) 18:00～20:00

講師： 津留隆幸氏(ネグジット総研)

宮義史氏(アインファーマシーズ)

原敦子氏(HYUGA PRIMARY CARE)

参加者：アンケート回答者:22

薬局業務のオンライン化待ったなし！

2021年度 第1回 昭和薬科大学 生涯学習講座

オンライン服薬指導 の現状と今後の課題

主催：昭和薬科大学地域連携センター
共催：町田市薬剤師会

2021年 6月12日(土)
18:00～20:00
開催形式：Zoom

受講無料

講演内容
改正薬機法が薬剤師に求めるものは？
社会情勢の変化やコロナ禍のもとで、薬局のオンライン化はどのような状況にあるのか？
必要な準備とは？ 見えて来た課題は？

講師：
津留 隆幸 先生 (株)ネグジット総研 経営コンサルティング事業部リーダー
宮 義史 先生 (株)アインファーマシーズ アイン薬局 NEWoMan新宿店
原 敦子 先生 HYUGA PRIMARY CARE (株) HR部 マネージャー

受講希望の方には Zoom URL をお送りしますので、お手数ですが以下のフォームより
参加申し込みをお願い致します。参加申込締切：2021年6月9日(水)

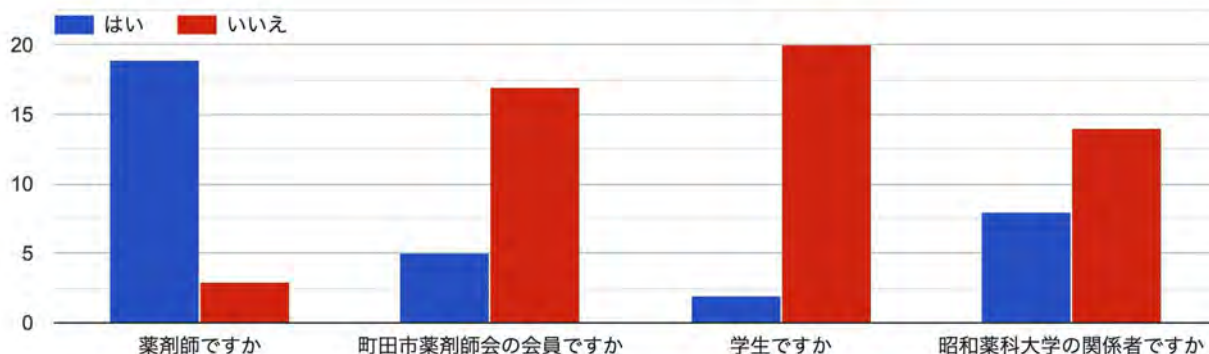
<https://forms.gle/He6CdSg1uWHf2xei6>

問い合わせ先 臨床薬学教育研究センター
地域連携部門 高田 公彦 (takada@ac.shoyaku.ac.jp)



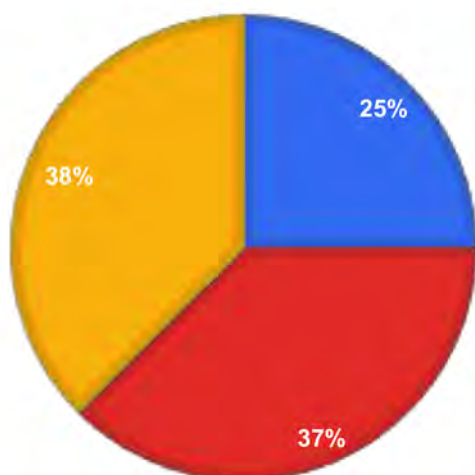
◎ 所属

(1) 以下については、はい、いいえ、でお答えください



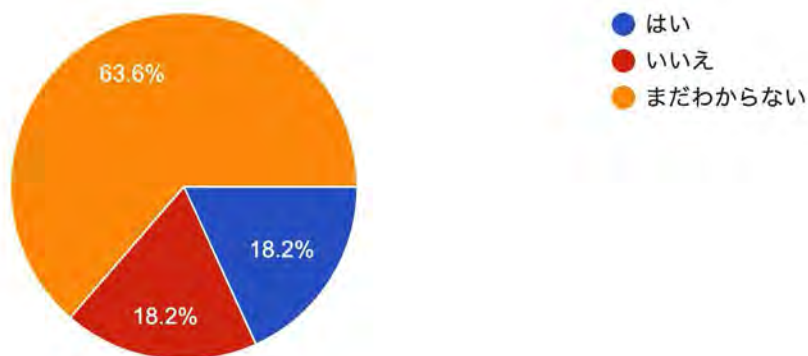
◎ 何で知ったか

■ 薬剤師会 ■ 大学ホームページ ■ 教員からの誘いなど



(3)オンライン服薬指導を導入しようと考えていますか？

22 件の回答



◎ オンライン服薬指導のメリットは？

- ご自宅での様子がわかる。患者の生活背景が鮮明になる点。
- 患者さんの利便性
- 医療費削減
- 薬局側：在宅であれば移動時間などを省けることによって、対人業務など更に時間を充てることができる。患者側：忙しい方にとってはオフィスからでも服薬指導を受けることができる。
- 身体の状態で外出の難しい患者や、小さなお子様のいるお母様には喜ばれるシステムだと考えております。
- 時間の節約。移動負担の軽減。
- 薬局薬剤師の活躍の幅が広がるかと思いました。
- 遠隔地、離島など
- コロナ禍で、感染症対策としてのメリットは大きいと思います
- 在宅でできること
- 病院に来なくても、薬局に来なくても薬をもらえる
- 場所が限られていないのでネット環境が整っていて静かな場所であればどこでも受けれるということと日程や時間を予め決めて行うので予定の調節がしやすいことが挙げられる。患者さんの薬局で「待つ」という時間と薬局まで「行く」という時間を短縮できることは大きいと思う。
- 訪問とオンラインのハイブリットによる患者さんへの治療のフォローが可能なこと
- 時間の有効活用、高齢化に伴うマンパワーの効率化、生活様式の変化への対応
- 本日の宮先生、原先生のご講演を拝聴して、仕事などで多忙な現役世代、在宅支援を受けられている高齢者の双方にメリットがある方法であると再認識しました。
- 身体的、精神的に外出が困難な方については選択肢が増えると思います。

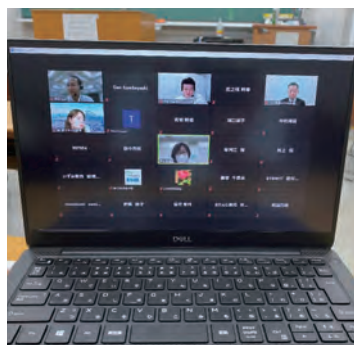
◎ オンライン服薬指導のデメリットは？

- 手間とコストがかかる
- 医師会・薬剤師会の意志
- 医療のニーズが高い高齢者などがデバイスを使いこなせないこと。
- デバイスの準備の手間、セキュリティ面の脆弱性、患者の歩いている姿や所見を確認しづらい点が考えられます。
- 情報不足。
- ITリテラシーの標準化が難しい。ITリテラシーの低い高齢者にどう対応していくか
- 患者の利便性(オンライン診療も含めたシステムの使い分け、コスト、薬入手のタイムラグ)
- 機器設定や初期設定の手順が煩雑そうな点
- 機器をそろえるところ
- 導入が煩雑である点。
- ネットやデバイスを使い慣れていない方、特に高齢者の方や障害者の方には一人で行うことが難しい。ネット環境が整っていないと厳しい。処方から薬剤が患者さんに渡るまでの過程・手続きが複数あり複雑で患者にとってデータの記入などが手間となる。すなわち時間がかかったり、講座内でも出ていたがオンライン診療からオンライン服薬指導までのタイムラグがありこの時に何か問題が発生してしまうのではないかと思う。
- 高齢者のパソコン、スマホの対応が厳しい。訪問を希望されている患者さんは物足りないことが予想される。
- 費用面、通常業務との並行、高齢者へのデバイスの工夫
- 先生方も講演で触れられていましたが、ITリテラシーの有無や補助者の有無、導入費用、患者負担、本人確認、薬剤配送、診療報酬など、課題が多いと感じました。
- デバイスが利用できない患者様、薬の配送方法や金額の負担及び到着までのタイムラグ
- 現時点では診察から薬の受取まで時間差が長く生じることと、オンラインデバイスを使いこなせる人に利用が限定されてしまうところです。

◎ 感想や意見

- 取り組みやすい環境が整い、広がっていくと良いと思います
- どの医療機関が導入しているかわからない、わかると良い。
- OLの理解を深めた
- オンライン化は今後間違いなく進んでいく中で、具体的に必要なことな何なのか不鮮明でした。少しの手がかりになればと受講させていただきました。オンラインのメリットデメリットを、システム導入の視点、現場の声と多方面からのアプローチを聞くことができ、勉強になりました。今後も動向を追って、患者のニーズにアンテナを張りたいと思います。
- 若い世代の在宅ワークで利用が多いと言うのが意外でした。
- とても参考になりました、積極的に取り組みたいと思います。
- 大変参考になりました。ありがとうございました。
- 学生にも聞いてほしいと思いました。
- 有難うございました
- 貴重な御講演をありがとうございました。
- 講演内容は実体験の話題もあり、非常に興味深かったと思います。認定薬剤師の研修単位を付与してほしい参加者の方はどれくらいいたのか、知りたいところです。
- 通常のオンライン服薬指導以外に服薬指導後のフォローアップを行わなければいけないのでその点にもつなげられればと思います
- 本日はありがとうございました。貴重なお話を拝聴できて、とても勉強になりました。
- 実務的な経験がないので中々メリットが自分の中で出てこなかったが、今回参加して話を聞いたことでメリット含めデメリットや、診療から処方までの一連の流れを学ぶことができた。
- 話を聞いた後でもやはりメリットよりもデメリットの方が多く浮かんでしまうという点においてはもっとオンライン服薬指導にメリットを見出し、薬剤師としてかかりつけ薬剤師などのように薬剤師像を独立化することで世の中の薬剤師像をもっとはっきり浮かべてもらうことができるように努めていかないといけないと思った。
- 大変勉強になりました。高田先生有り難うございます。
- さまざまな観点から意見をお伺いでき参考になりました。更に情報収集をし、効果的な対応として進めていきたいと考えます。
- コロナ禍で大いに注目されてきているオンライン診療・服薬指導ですが、解決すべき課題は山積している状態であるとの印象をうけました。その中で積極的にオンライン服薬指導に取り組まれている宮先生、原先生のご活動に大変感銘を受けました。
- 分かりやすい解説、具体的な内容、メリットとデメリット、これからの課題。3名の先生方のお話は皆とても興味深く参考になりました。在宅業務の一つの方法として検討して行きたいと思います。どうも有り難うございました

- 大学館内の照明が落ちるアクシデントびっくりしましたね。講師の先生方とても経験談を詳しくご説明いただきありがとうございました。認知症高齢者などでは飲み忘れ問題がよく話題にあがるのですが、倫理的な問題もあるので、ご本人やご家族の了解を得られればという限定されたケースでしょうか、お薬カレンダーだけに定点でカメラを向け、動画撮影しておき、薬を取り出して服用することができているかを薬剤師やケアマネ、訪看などで共有することをオンライン服薬指導とセットでできる場合も、もしかしたらあるのかと思いました。



2)第2回 「緊急避妊薬を薬局で」

開催日：2021年10月30日(土) 17:00-18:50

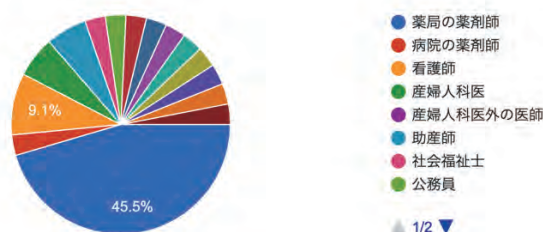
講師： 遠見才希子 氏(産婦人科医)：
女性が自己決定できる社会へ：緊急避妊薬を突破口に
片羽教子 氏(健ナビ薬樹薬局 パークタワー新川崎)：
薬局でも、緊急避妊薬を。

申し込み人数：180人

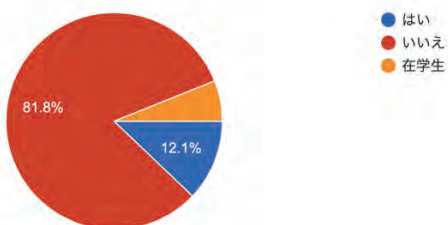
認定シール：39枚

アンケート回答：33人

あなたの資格・職業を教えてください
33件の回答



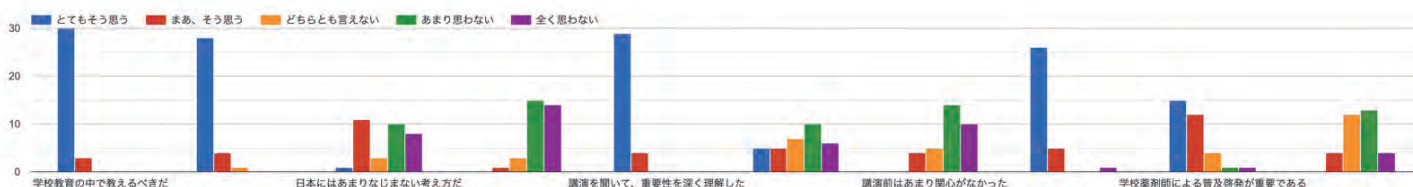
あなたは昭和薬科大学の卒業生ですか
33件の回答



本日の講演内容について以下より当てはまるものをひとつ選んでください
33件の回答



セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツについてどのように考えていますか。以下の中から一つ選んでください。



2021年度 昭和薬科大学・町田市薬剤師会 生涯学習講座

緊急避妊薬を薬局で

開催日：2021年10月30日(土)
17:00-18:00
女性が自己決定できる社会へ：
緊急避妊薬を突破口に
遠見才希子先生 (産婦人科医)

18:10-18:50
薬局でも、緊急避妊薬を。
片羽教子先生 (健ナビ薬樹薬局)

方法：オンライン開催 (ZOOM)

- * 申し込みされた方にZOOMのアドレスをお送りします (事前申し込みQRより)
- * 質疑応答と演者交代、当日の諸注意等伝達の時間を含みます
- * 受講料は無料です

遠見才希子 先生：
神奈川県生まれ。2011年、聖マリアンナ医科大学卒業。現在、横浜大学大学院社会科学研究科保健学分野博士課程在籍。学生時代より「えんみちゃん」のニコニコ動画で、薬剤師として働くために性について、考える講演活動をはじめ。著書に「ひとりじゃない。自分の心と体を大切にすること」「だいだいじーこーだ」等。

片羽教子 先生：
1992年3月群馬県立大学薬学部卒業。群馬県地のバート薬剤師 (3人の子育て中心の生活) 約20年間。2018年2月薬樹株式会社入社。2019年1月県薬剤師会認定取得。薬師薬剤師として関わる後教育について関心。

対象：薬剤師、医師、看護師、その他医療関係職等、市民、学生

オンライン開催により、日本薬剤師研修センターの認定単位については町田市薬剤師会に申し込みが必要です。

認定シール申込フォーム→ <https://forms.gle/hVvBDAKRvuzyrRb9>

【主催・企画担当】昭和薬科大学・地域連携センター
【共 催】(一社)町田市薬剤師会

講座の事前申し込み用QR

遠見先生講演へのコメント(抜粋)：

- 一方的にご活躍を存じ上げていて、大変いつも学ばせていただいています。ありがとうございました。
- いつも通り、パワフルな講演で何度聞いても勉強になります。全薬剤師に聞いて欲しいと切に思います。
- 今まであまり深く考えてこなかった内容でしたが、先生のお話と熱意をお聞かせいただき、積極的に関わって行かなければと思いました。
- 学生時代から性教育に取り組んでおられて、そこでの経験から、どのように性について正しい知識を啓発していくのかのノウハウを学べたので大変ありがたかった。
- SRHRを基本とした考え方に、心から共感、賛同します。私もジャッジしない関わりを心がけているつもりではありますが、あとから考えれば反省することばかりです。先生のご講義を聴いて、改めて基本に戻れたような気がします。
- 患者・使用者の立場をとっても考えてくれていると思いました。
- 最後の部分のみしか拝聴できず残念でしたが、産婦人科の先生自らが、SRHRについては、まだまだ多くの方々と共に産婦人科医も学び、ともに理解を深めてゆきたい、という趣旨のお言葉があり、多くの大人が関わることの重要性を強く改めて感じました。
- YouTubeなどで拝見しましたが、とても分かりやすく、大切なお話だと思います。活動、応援しています。
- とても良かったです。先生の活動応援しています。
- 実際に悩んでいる当事者の声など紹介いただいて緊急避妊薬の必要性をより実感できました
- 性教育の重要性や避妊に対する効果について知ることができました。若い人こそ知るべき情報を学校では教えて貰えないもどかしさを思い出しました。アフターピルについてはニュースで何となく知っていただけだったので、とても貴重な話を聞かせていただきました。
- 何度かご講演を聞かせてもらってます。日本が他国と比べて遅れているのは何故か？
- 熱い思いが伝わってきます。
- 本人への啓発はとても大切ですが、母親と娘の間にスムーズな風を入れる事も大切かと感じています。実際、自分も20代の娘と息子の母ですが、高校生の時に、娘には自分を守るために、息子には彼女との未来のために、緊急避妊薬の事を教えました。そして『万が一の時には24時間以内にかあちゃんに言って!』と。
- ひよっこ助産師です。先生は講演の中で、WHOの基準での緊急避妊薬の立ち位置や、諸外国での実情をわかりやすく解説して下さいました。産婦人科で対応するであろう、看護師や助産師にとってもとても重要な事だと感じました。医師の指示のもと働くスタッフにとっては、医者のお考え方が絶対的になる事があります。しかし、中には独自の解釈や基準でエビデンスに乏しいガイドラインとかけ離れた治療方針を打ち出す医師がいます。望まない妊娠は女性一人が責められるべきではありません。身体的・精神的に大きい負担を強いられるべきでもありません。そんな中、看護師・助産師も正しい知識を持ち患者さんのサポーターとなる必要があると思います。医療従事者が善悪をジャッジするのではなく、まず選択肢として正しい知識・技術を提供出来る事が大切だと思いました。
- 避妊薬、性教育に関してまだまだ勉強不足ではありますが、今後も学び続けていきたいと思います。
- これからも遠見先生の益々のご活躍を祈念いたします。"
- 遠見先生のお話の根底にあるものにとっても感動しました。多様性とか、LGBTなどが話題にのぼるようになって来ていますが、結局はすべてが人権につながるということを、強く感じました。誰もが同じように選択でき、生きて行ける社会を作っていくことが大切であると感じ、そのために私が個人としても薬剤師としてもどのように関わって行くべきなのを感じさせていただきました。
- OC、緊急避妊薬やMedical Abortionをめぐる議論では、政治、行政、医師会などの利害関係者による(内向きと思われるような)議論と意思決定ばかりが報道されており、当事者である女性目線の議論がなかなか進んでいないのではないかと常々感

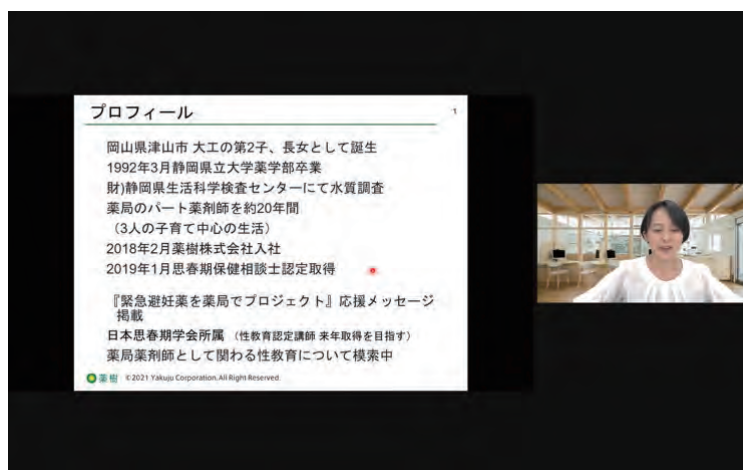
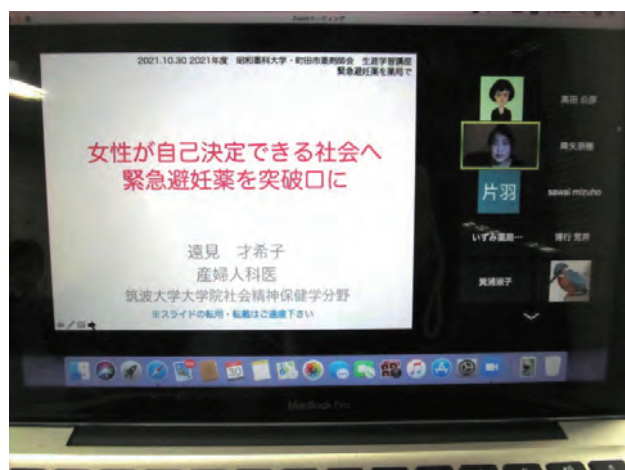
じておりました。そのような状況の中で遠見先生の当事者目線のご活動には大変敬服しております。当方は利害関係者に付度せざるを得ない立場であるため組織内では自由な発言を行うことはできませんが、自らの出来る範囲で女性の健康に役立つ活動を続けていきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

- ・ とても楽しくそして為になるお話をどうもありがとうございました。来年度から学校薬剤師になる予定のため私にも何かできるかもと思わせていただける、すてきな講演でした。
- ・ 薬剤師さん向けの講演だからか、詳しい内容まで踏み込んでいた印象を受けました。ミニピルについても言及してくださったのがとてもうれしいです。薬剤師の方に知っていただいて、ミニピルが認可される方向へ動かしていきたいです。
- ・ 以前よりSNS発信していた記事を読み、興味を持っていました。今回講演に参加でき、より理解が深まりました。私自身も性教育は恥ずかしいこと、難しいとハードルが高く感じていましたが、誰にとっても必要な教育だと改めて学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・ 自分も海外に住んでいて避妊手術がつい数年前まで合法化されていない国だったので、女性がレイプされても産むしかないと聞いていたので自分の娘が、万一、と思いモーニングアフターピルを持参して駐在していたので他人事ではなかった。
- ・ 高校生です。学校では学ぶことが制限されていることを初めて知りました。周りの友人と話すたびにもっと性について知る機会が必要だと思いました。
- ・ 非常にわかりやすかったです。私も1年生の時遠見先生の授業を受けたかったです。
- ・ 遠見先生のご講演を聞いてから、著書やSNSをチェックさせていただいております。私は特別支援学校の養護教諭をしているのですが、知的障害児童生徒に性教育はとても重要と考え、保健指導を実践しています。ただ、保護者の性に関するイメージがネガティブなものが多く性教育が浸透しにくい現状があります。そのため保護者に理解を深めてもらうことも並行して行う必要性を感じています。そのような中、遠見先生のお話はこれからの性教育の方向性を具体的に示していただいたと思いました。これからも遠見先生のご活躍をお祈りしつつ、追っかけて参りたいとおもいます。どうぞよろしくお願いいたします。
- ・ "憧れの遠見先生が母校で講師をされていて、今回は一般向けに講演会をすると知り、とても嬉しく思いました。
- ・ 性教育ができていない方も、同じ様に権利があると言う言葉が印象的です。ジャッジしない、と同様、心に留めておきたいです。

片羽先生講演へのコメント(抜粋)：

- ・ 薬局薬剤師の利用者へ、目には見えないところで配慮をされている点が多くあって、素晴らしいと思いました。
- ・ 緊急避妊薬を薬局で調剤することになった場合の心得を教えて下さったので、役立つツール等含めて勉強になった。
- ・ 調剤薬局の薬剤師さんは本当に街の身近な医療従事者だと思います。特に勉強熱心で知識豊富な薬剤師さんの存在は本当に頼もしいです。(私もよくお世話になっています)もし、緊急避妊薬がもっと簡単に手に入るとなったら、薬剤師さんの対応がもっと重要になってくると思います。薬剤師さんが性教育というイメージは全くありませんでしたが、講演を聞いて面白そうだと思います。私もまだまだ勉強不足ではありますが、一緒に学びを深めていきたいと思いました。貴重な講演の機会をありがとうございました。
- ・ 薬局の薬剤師として、積極的に研鑽され、行動されていることを素晴らしいと感じました。多忙な中難しいとは思いますが、もっと活動を広げていけるようにグループを作っていただけたら嬉しいと思います。(既にあるのに知らなかったらすみません)
- ・ 分かりやすいご講演を有り難うございました。思春期保険相談士の認定を受けられた薬剤師の先生のご講演を(不勉強ながら)初めて拝聴しましたので、大変勉強になりました。
- ・ 今の日本での現状をわかりやすく教えていただきました。薬局での取り扱いがまだまだ不十分なのではないかと感じていましたし、やはり手に入れるまでのハードルが高いかなと思いました。もっとも身近で相談しやすい町の薬局で、誰に大しても広く受け入れられるような活動をすすめておられ、その姿勢を学ばせていただきました。貴重なお話をありがとうございました。

- 悪用されないように転売防止のため薬局内で薬剤師の面前で服用させなければならない、と思っている薬剤師は多いと思う。
- また薬局の男性薬剤師はこの薬を売るのはやはり女性だから自分には関係ない、というスタンスの人もまだ多いと思うし、避妊についても第二次成長がある中学生の時にはしっかり知識として持つておくべきだと改めて思いました。
- 情報源を知ることができてよかったです。いざというときにどこにどうアクセスすれば良いか聞いたことあると心にゆとりが持てると思いますよろしく。
- 薬剤師の方々が、ご講演にあったような活動をされていることを知りませんでした。児童生徒に万が一、緊急避妊薬が必要になった場合、薬局や薬剤師に相談できることを知り心強く感じました。先進国である日本が、性教育を含め、性に関する取組がこれまで遅れているのはなぜなのかとても疑問に感じました。片羽先生の一生懸命な想いが伝わる素敵なお講演だったと思います。今後も機会がありましたら、拝聴したいと思います。
- 薬剤師の代表として緊急避妊に関わってくださっていて、ありがたいです。優しい雰囲気が伝わってきて、こんな薬剤師さんの薬局なら安心して相談できると思いました。



3)第3回まちづくりとフレイル予防

開催日:2022年3月3日(木)17:00-18:50

講師: 飯島勝矢先生(東京大学高齢社会総合研究機構機構長)

健康長寿をめざして:超高齢社会のまちづくり

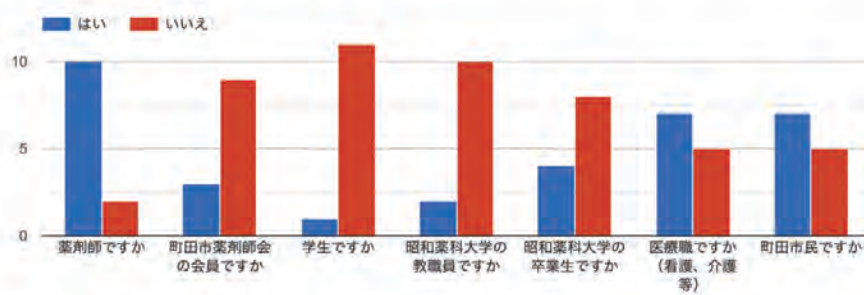
串田一樹先生

コミュニティ全体の健康推進の担い手になろう!薬局への期待

申し込み:36名

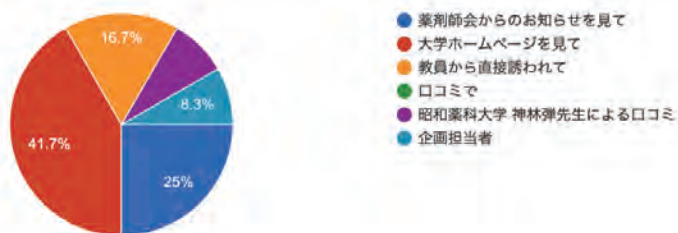
アンケート回答:12名

(1)以下については、はい、いいえ、でお答えください



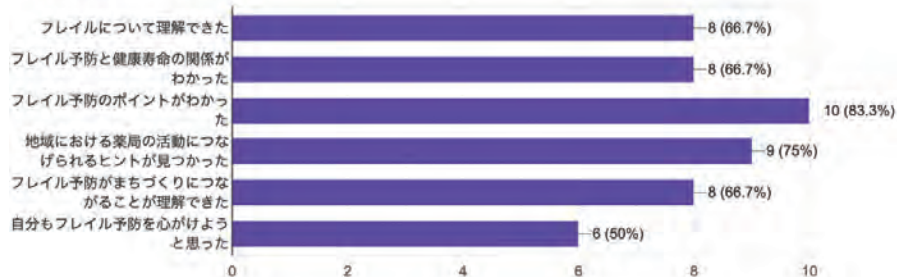
(2)この講座についてどのように知りましたか。以下より選んでください。

12件の回答



(5)本日の講演の成果についてあてはまるものをチェックしてください

12件の回答



2021年度 昭和薬科大学・町田市薬剤師会 生涯学習講座第3回

まちづくりとフレイル予防

開催日:2022年3月3日(木)

17:00-18:00
健康長寿をめざして
: 超高齢社会のまちづくり
飯島勝矢先生 (東京大学 高齢社会総合研究機構 機構長)

18:10-18:50
コミュニティ全体の
健康推進の担い手になろう! 薬局への期待
串田一樹先生 (前昭和薬科大学特任教授)

*方法: オンライン開催 (ZOOM)
*申し込みされた方にZOOMのアドレスをお送りします (事前申し込みQRより)
*質疑応答と演者交代、諸注意等伝達の時間を含みます
*受講料は無料です

飯島勝矢先生: 1990年、東京医歯薬大学薬学部卒業。内閣府「一億総活躍実現推進」(有識者民間議員)などを歴任。専門は老年医学。専攻: 特に健康寿命延伸に向けた健康増進のまちづくり。地域薬局ネットワーク構築、フレイル予防研究、在宅医療の推進と多職種連携推進。事業に「在宅医療のまちづくり、今日からできるフレイル予防」(東京大学出版)が関わった数少ない人の生活習慣。

串田一樹先生: 1974年、昭和薬科大学を卒業後、同大学大学院研究助教授を経て、2021年7月まで地域連携薬局イノベーション推進の専任教授を務める。その後も、薬局の発展を推進して、地域を支える。患者さんを支える薬剤師・薬師を明らかにしたいと研究を続けている。

対象: 薬剤師、医師、看護師、その他医療関係者、市民、学生

オンライン開催により、日本薬剤師研修センターの認定単位については町田市薬剤師会に申し込みが必要です。

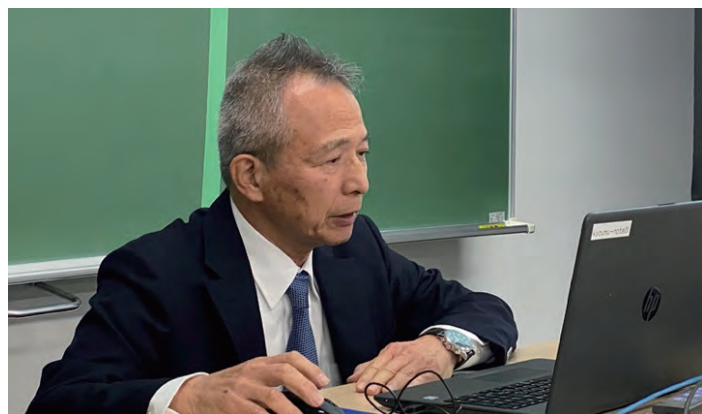
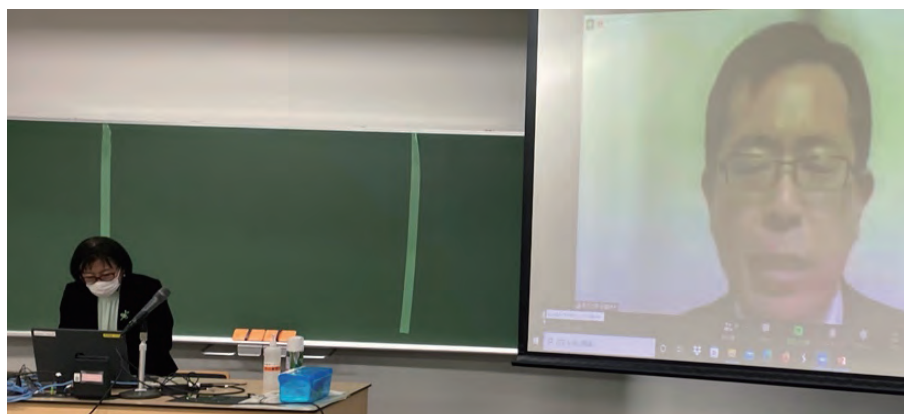
認定シール申込フォーム

【主催・企画担当】昭和薬科大学 地域連携センター
【共 催】(一社)町田市薬剤師会

2022年1月以降公開

感想(抜粋)：

- このような内容の講演では、せつ々しくないので地域包括や行政、デイサービスやケアマネジャーなどにも広く呼びかけて参加していただくと、お互いに連携しやすくなるのではないかと思います。
- 大変勉強になりました。先生方、運営の方々ありがとうございました。相模原市ではあるコミュニティセンターでは保健士さんが常駐で軽い運動をしたり、血圧等を測定するスペースを運営していると聞いております。町田にもそのようなスペースができるといいと思うのと同時に、そこでお薬相談など薬剤師としてできることで行政にかかわっていったらよいのではと思いました。
- コロナ禍でも、これからもこのような勉強会に参加していきたいと思います。
- とても勉強になりました。また参加させていただきたいです。



<2> お薬相談カフェ

11月11日(木)10:00～11:30にオンラインにて「おくすり・子育て相談カフェ」が開催された。

コロナ禍以前は、大学のキャンパスで「おくすり相談カフェ」を行い、子育て親子に仲間づくりや相談の時間を提供してきました。昨年に引き続き、今年もオンラインで、町田地域子育て相談センターと町田地域活動サポートオフィスの協力で「おくすり・子育て相談カフェ」としてバージョンアップして開催されました。オンラインは2年目ですが、広報や参加者の募集などを子育て相談センターとサポートオフィスが担い、また、相談に応じる薬剤師は町田市薬剤師会や卒業生の小児薬物療法専門薬剤師の協力を得て、集まっていただきました。

当日は、生後3カ月のお子さんを育てるお母さんをはじめ、6人のお母さんと4人のお子さんが一緒に参加してくださいました。登壇いただいた4名の薬剤師さんは、お母さんたちのさまざまな質問に、具体的なアドバイスをしてくださいました。また、町田地域子育て相談センターの職員さん2名は、お薬のことだけではなく子育てについてのさまざまな不安なども相談することができました。

お母さんたち、薬剤師さん、センターの職員さんそれぞれ自己紹介を終えたあとはZoomのブレイクアウトルーム機能を使い、2グループに分かれて少人数で意見交換しました。普段から気になっているお薬のことや子育てのことを思い切って相談できたようです。以下当日の質問とアドバイスを一部紹介します。

おくすり・子育て相談カフェ

昭和薬科大学の地域連携センターと共催で『おくすり子育て』をテーマにした子育てひろばを開催します！
感染予防対策で対面での開催が難しい状況ということで今回は町田地域活動サポートオフィスが皆さんをオンラインでつないでくれます。
薬剤師、臨床心理士、保育士が参加しますので、くすり、調剤、健康、子育て等日頃の子育ての中で生じる疑問・質問を相談や情報交換ですっきりしませんか。

日時：2021年11月11日(木) 10:00～11:30
オンライン(Zoomを使用します)
対象：未就学のお子さんと保護者 40組(町田市在住・登録者)
予約受付：2021年10月1日(金)～11月10日(水)
申し込み：町田地域活動サポートオフィスお申し込みフォーム
URL: <https://forms.gle/BdUWk3d3Rj7e7>
申し込みフォームへの入力できない場合は、メール (info@machida-support.or.jp) 宛てに件名【お薬子育て相談カフェ申し込み】としてお名前、連絡先メールアドレス、電話連絡先、お子さんの年齢・月齢をご記入の上、お申し込みください。

【問い合わせ先】
町田地域活動サポートオフィス 電話：042-785-4871
町田地域子育て相談センター 電話：042-710-2747

相談センター作成のポスター



【薬剤師さん、子育て相談センターの職員さん、臨床心理士・公認心理師からのアドバイス(一部抜粋)】

- コロナでマスクをしていると子どもの発語が遅れるという話があるので心配しています。

家の中でマスクを外して話しかけているなら大丈夫!最初の赤ちゃんは特になんて話しかけたらいいかわからないですよね。なんでもいいから話しかけてみるといいし、アイコンタクトを取るだけでもばっちりです。

- 薬を飲まなくても良い体づくりについて教えてください。

外に出てお日様にあたるのが大事。お日様にあたることで赤ちゃんにとって心地よい疲れになり、生活リズムが出来てきます。たくさん動いて筋肉を付けると丈夫な体になります。アルコール消毒もありますが、手洗いうがい感染予防の基本。早めに取り組むようになるといいですね。

- 日焼け対策は必要ですか？

普段の外出なら問題ないですが、長時間の水遊びの時などは、日焼け対策も必要。特にお肌が赤くなるタイプのお子さんは長袖を着せるなど工夫すると良いです。日焼け止めの成分を気にする方も多いですが、日焼け止めの成分は、経皮吸収されないという研究結果が出ています。

- 薬のことはお医者様に相談しても大丈夫ですか？

「薬をあんまり飲ませたくないな」「漢方など違う薬に変えてほしいな」などお母さんの考えはお医者様、薬剤師にどんどん伝えていいですよ!最近、抗生物質などは本当に必要だと医師が判断した時にしか処方されない場合が多いです。

薬剤師さんからは、医師や薬剤師に相談や質問するのは勇気がいるかもしれないけれど、「子どものことを何よりも一番わかっているのはお母さん!どんなことでも聞いていいし、言ってみていいんですよ」というアドバイスもありました。カフェという形式で気軽に参加することで、近くに住む、子育て中の仲間とも知り合える、貴重な機会となっているようでした。

<3> その他

1)4/9 ワクチン接種関連:臨床薬学教育研究センターの先生方が、町田市薬剤師会の「新型コロナウイルスワクチン集団接種訓練講習会」をサポート



2)東京都薬剤師会・第4地区研修会を大学で開催



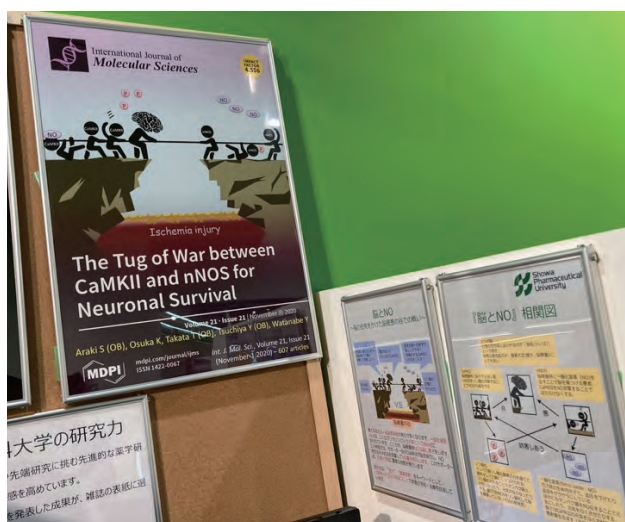
5. さがまちコンソーシアムにおける大学間連携を目指した活動

<1> ユニコムプラザ大学情報展示コーナー



大コーナーには15校、小コーナーには3校で、季節ごとの展示を実施しています。今年度は小コーナーでしたが、ぜひ近々、大コーナーを狙いたい！

秋からは、若手の先生方の研究成果を中心に、パネル展示内容は新しいものと交換しました。今回は、研究内容を市民にもわかるよう解説した小パネルとセットでの展示となりました。

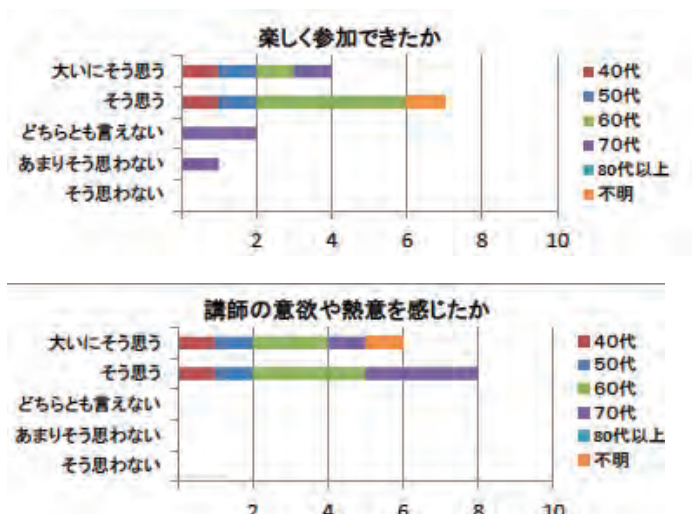


<2> 市民大学交流会 5/26

金本大成先生による「感染症の歴史：新興感染症とはなにか」の講義が行われた。講師はオンラインで参加し、会場には人数制限して10名の参加者が興味深く聞き入った。

<3> さがまちカレッジ

「薬学の視点から考える身近な健康のお話:身体の画像診断法」(唐澤悟教授)は対面での実施となり、好評を博しました。

[illegible]

主な感想は、以下の通りです。

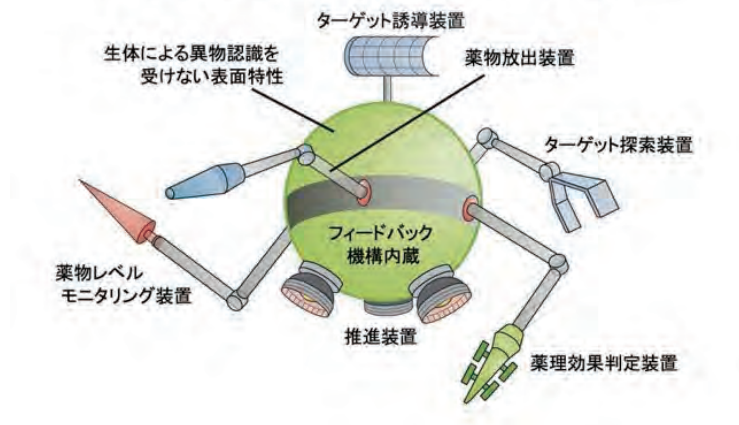
- 大学教授のお話を、このお値段で楽しく聴講できました。大人になってからのほうが、10～20代の頃よりも理解深く、楽しく眠らずに受けられた。
- 先生がフランク。造影剤のカラクリがわかりました。
- 深い知識のない者にもわかりやすい。
- 基本原理がよくわかりました。
- 画像診断の色々なモノが分った。
- 今話題のコロナに関することや医療検査についてふれたこと。
- X線吸収の原理がわかりやすい。
- パルスオキシメーターのしくみがわかった。
- 日常、受けている検査だが、少し内容が理解できた。今後、検査する上で、とても参考になりました。

6. 小田急まなたび講座でより広い地域への大学の魅力を発信

第1回「くすりに込められた様々な工夫」（宇都口 直樹 教授）

開催日 2021年10月22日(金)10時30分～12時

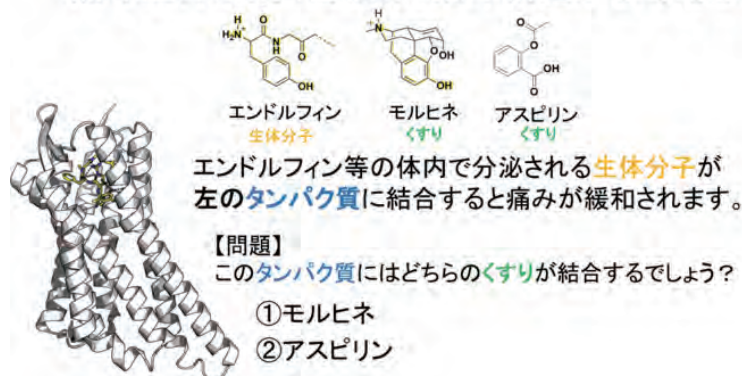
ドラッグターゲティングマシン



第2回「痛み止めが効く仕組み:薬の構造から考える」(伊藤 俊将 教授)

開催日 2021年10月29日(金)10時30分～12時

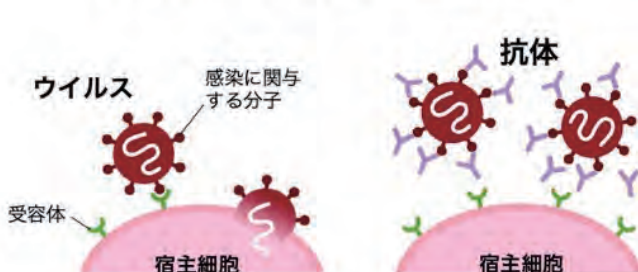
痛み止めが効く仕組み:薬の構造から考える



第3回 「感染症を予防するワクチン:ワクチンのしくみ」(金本 大成 教授)

開催日 2022年2月25日(金)10時30分～12時

抗体は宿主細胞への病原体の侵入を特異的に阻害することができる



第3回は植物園ツアーとセットでの募集でしたが、蔓延防止重点措置のために、閉園で実現しませんでした。そこで、招待状をお渡しし、開園されたら訪問いただけるようお願いしました。



7. 南町田地域コミュニティへの参画

2021.4.12-18 科学技術週間(<https://stw.mext.go.jp/event.html>) イベント開催しました。

地域連携センターでは、南町田のパークライフ・サイト(<https://minamimachida-grandberrypark.com/pls/>)で、子ども向けのサイエンス講座「電子顕微鏡でミクロの世界をのぞいてみよう」を行いました(文科省の協力期間一覧はこちら。31番目。

→https://stw.mext.go.jp/common/pdf/event/kikan_list.pdf)。

イベントではふたつのプログラムを行いました。

その1:

4月18日曜日に、'子どもクラブ つみき'にて日本電子(株)のご協力のもと、「電子顕微鏡でミクロの世界をのぞいてみよう」を行いました。当日は2回に分けて講座を開き、全部で10組の親子が参加しました。講座開始前に鶴間公園内つるまの森から草花などのサンプルを採集してきた子もいました。電子顕微鏡で、見たい部分を拡大したり、画面上で回転させたりして、ミクロの世界を楽しみました。体験以外に標本スケッチや3D写真観察もできて、子どもも大人も大満足でした。

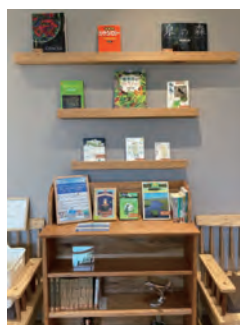
子どもクラブに日頃から通ってきている常連メンバーの中で、このイベントに参加してくれた子の様子を見てみると、十分イベントを楽しんだ後は、クラブのいつものお気に入りの場所で、遊び始めていました。

その姿を見ると、子どもたちが日常を過ごす身近な場所で、先端技術を用いた科学体験イベントを実施すると、子どもは科学をより身近に感じることができることがうかがえ、みなさまのご協力で実現できたことの素晴らしさをあらためて実感しました。



その2:

4月12日から18日までまちライブラリーにて「科学の本棚を作ろう」という試みが実施できました。ライブラリー内の本からひとりひとりが選んだ本を本棚に並べて、日々本棚が変わって、充実していくのを見ることができました。期間中配布した一家に1枚ポスターは好評で、残部はわずかですが、引き続きまちライブラリーで配布してもらうことにしました。



4月13日の本棚の様子



最終日(4月18日)の本棚と
まちライブラリーの金城さんと尾崎さん

南町田地域でのコミュニティ活動への参画

鶴間公園(<https://tsuruma-park.com/>)は「日常生活+α」をテーマに、市民参画型の管理や活用を目指す新しいコンセプトの公園です。地域連携センターでは、鶴間公園地域コミュニティ連絡会のメンバーとなって、定例の会議や公園活用のイベントに参加し、周辺自治会、市民団体、東急(株)、タニタカフェ等と交流を深めています。

8. 2022年度に向けて

すでに、4月：科学技術週間(日本電子(株)とのコラボ)や、8月：さがまちカレッジ中高生向け実験講座(梶川瑞穂先生、石田寛明先生)また秋のさがまちカレッジ講座(渡部一宏先生、唐澤悟先生)については、開催が決まりました。

また、町田市薬剤師会との生涯学習講座(年2－3回)、小田急まなたび：秋と冬に1回ずつ(植物園の見学とセット)、お薬相談カフェ、ユニコムプラザ展示、団地プロジェクト、町田セルビアや他の自治体との連携も始まりそうです。

コロナ禍が続くとも、コミュニティが大学を待っていてくれる限り、地域連携センターは総動員体制で、活動していきたいと思っています。

学内の教職員のみなさまにも、可能な範囲でご参加、ご協力をお願いいたします。

2021年度地域連携センター運営委員会

委員長(センター長)	吉永真理
幹事(副センター長)	唐澤 悟
委員	渡部一宏
	高田公彦
	梶川瑞穂
	石田寛明
	神林 弾
	谷口 泉
	牧野泰靖
	佐々木兵馬

